

有識者意見の概要及び意見に対する対応

1. 調査研究課題名「地域公共交通事業における収益性と効率性に関する調査研究」	
2. 有識者意見の概要及び対応 有識者：徳永 幸之 氏 宮城大学事業構想学部教授 吉田 樹 氏 福島大学准教授	
意見の概要	意見に対する対応
<ul style="list-style-type: none"> 指標については、絶対値を見るのみではなく、経年変化で見ること重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 指標は経年変化も併せて確認し、ケーススタディを行った。また、次年度も継続して経年変化に着目した調査研究をすることとした。
<ul style="list-style-type: none"> それぞれの指標について、変化量や変化率を確認し、良くなったところについてどのような経営努力を行ったか事業者ヒアリングするとよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングでは具体的な実施策も含めて聞き取り調査した。また、次年度も継続して経営努力に着目した調査研究をすることとした。
<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング先等の選定に際しては、事業者の特性として、事業者規模、都市部と地方の違いによって、行政との関係性が全く異なることに留意すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリングやケーススタディ先の選定にあたっては、特徴が異なる事業者を選び、幅広く調査した。
<ul style="list-style-type: none"> 外部環境としての沿線人口を見るときには、高速バス路線を除外するとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県を跨ぐ路線を除外して確認することとした。
<ul style="list-style-type: none"> 事業者に興味を持ってもらえるようなアウトプットを示した方がよい。また指標の改善のために必要な取組、取組に必要なデータ、そのデータの取得方法等についても示すべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> 非公表であるが、分析ツールや手引きの素案を作成した。これらの素案を元に次年度にはアウトカム視点の成果物を作成することとした。
<ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの受託等、はじめから利益を目的とした運行をしていない事業者の指標値が参考にならない場合があるので留意が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート分析第2ステップ時に「選定事業者群」を作成するなど留意した。
<ul style="list-style-type: none"> ケーススタディについて、通院のみならず、通勤の利用者を取り込める改善策を提示する方がよいのでは無いか。 	<ul style="list-style-type: none"> 国勢調査結果より通勤利用者の動向と需要を確認し、通勤利用に沿わない運行ダイヤとなっていることを提示した。